

リレー随想 日々感懐(NPO法人卒後臨床研修評価機構 専務理事 岩崎 榮氏)(p1) / 助成案件・一般演題募集 (p2) / 研究助成成果報告3編 (p4) / 「温故知新」 - 助成研究者は今 - (天野 恵子氏)(p7) / 第15回ヘルスリサーチフォーラム及び平成20年度研究助成金贈呈式を開催 (p8) / 第17回(平成20年度)助成案件採択一覧表 (p14) / 第5回ヘルスリサーチワークショップを開催 (p16) / 第5回HRWに参加して(奥 裕美氏、金村 政輝氏、豊川 貴生氏、山品 博子氏、)(p20) / 第34回評議員会並びに第34回理事会を開催 (p22) / 平成21年度事業計画概要、予定表 (p23) / 第16回ヘルスリサーチフォーラム予告 (p26) / ご寄付のお願い (p26)

Vol. 53
2009年4月

HEALTH RESEARCH NEWS



ヘルスリサーチニュース

主な内容

助成案件募集・一般演題募集

第18回助成案件を募集します。本年度は助成件数を大幅に拡大しています。同時に11月に開催のヘルスリサーチフォーラムでの一般演題を募集します。

「温故知新」- 助成研究者は今 -

第12回国際共同研究Bの助成を受けられた天野恵子先生に、ご研究のその後と近況をご報告頂きました。

第15回ヘルスリサーチフォーラム開催

前年同様メインホールでの発表とポスター形式によるランチョンセッションが併催されました。午後からの開催で密度の濃いフォーラムとなりました。

第5回ヘルスリサーチワークショップ開催

“グローバル社会と医療・変容・対話・展望 - ”のテーマの下に、“出会い”と“学び”の楽しい集いが行われました。

第18回リレー随想 日々感懐

エビデンスレベルの高い人材育成のためのヘルスリサーチに期待する

地域における医療が今日ほど注目された時代はないであろう。しかし残念ながら地域医療の崩壊という言葉だけが先行して“ではどうすればよいのか”という答えがない。

医師不足(偏在)だから医科大学(医学部)の入学定員を増やせばよいという、いかにも単純な発想で十分な検討もなしに1.5倍の入学定員増が決定されたことには問題だ。地域を担う医療の人材の育成は急務を要する。だが一朝一夕に成るものではない。即効的なものがないだけに悩みも大きい。

医師数や看護師数などに関するヘルスリサーチが少ないことにも原因するのも知れない。2005年第1回ヘルスリサーチワークショップでは、「『赤ひげ』を評価する」というテーマで行われたことは記憶に新しい。この延長線上にある話ではあるが、医師だけでなくすべての医療職の教育システムを変化させねばならない。その第1歩が36年間もの議論のついでの新医師臨床研修制度の誕生であった。この制度では将来どのような診療科に進む医師であろうとも良質で幅広いプライマリ・ケアの基本的診療能力を身につけることが求められている。これが社会の要請だとしている。それを医師不足の元凶だとして糾弾する向きもある。全くの誤解である。医師不足の解消に王道はない。

医学部教育での地域医療マインドのカリキュラムによる学習を大幅に増やすとか地域医療実習の方略の見直しとかが急がれるのであり、現状のままでの工夫もあるであろう。本当に医師不足なのかどうか、はたまた指導者の充実、教育環境の整備なども含めて、もっと真剣に、エビデンスレベルの高い、新しい人材育成のためのヘルスリサーチがなされることが望まれる。まさに急がば遅れである。



岩崎 榮

NPO法人卒後臨床
研修評価機構
専務理事

公募のご案内

第18回(平成21年度) 研究助成案件 を募集します

第18回研究助成案件の募集を下記の通り行いますので、ご案内申し上げます。本年度は1テーマ当たりの助成金額は下がった反面、助成件数を大幅に拡大して、より広く助成が行き渡るようになっております。詳細については、当財団ホームページ、又は、各大学、研究機関などに送付しております案内リーフレットや募集広告をご覧ください。

研究対象	保健医療・福祉分野の政策、あるいはこれらサービスの開発・応用・評価に資するヘルスリサーチ領域の研究	助成件数を大幅に拡大しました
応募規定	1. 国際共同研究【国際的観点から実施する共同研究】 期間1年間 1テーマ当たり300万円以内…………… 6 件程度 共同研究者：海外研究者を1名以上含めること 2. 国内共同研究【国内での共同研究】(年齢制限なし) 期間1年間 1テーマ当たり100万円以内…………… 10 件程度 共同研究者：同一教室内の研究者は対象としない 3. 国内共同研究【国内での共同研究】(年齢制限あり：平成21年4月1日現在満39歳以下) 期間1年間 1テーマ当たり100万円以内…………… 15 件程度 共同研究者：同一教室内の研究者は対象としない	
応募期間	平成21年4月～平成21年7月10日(金) 当日消印有効)	
助成決定	平成21年9月下旬	
応募方法	応募要綱・申請書フォーマットをご希望の方は、本財団のインターネットホームページからダウンロードをお願い致します。	

URL : <http://www.pfizer-zaidan.jp>

第16回ヘルスリサーチフォーラム 一般演題 を募集します

本年も下記により、第16回ヘルスリサーチフォーラムの一般演題を募集致します。
申込期間は4月～7月10日(木) 当日消印有効)ですので、奮ってのご応募をお待ち致します。

発表テーマ	「総合科学としてのヘルスリサーチ」
研究内容	医療制度・政策、医療経済に関する研究、保健医療の評価に関する研究、保健医療サービス、医療資源の開発に関する研究、医療哲学等に関する研究等
応募方法	財団ホームページから、財団所定の申請書式(Windows Wordファイル)をダウンロードして、必要事項をパソコン入力の上、当財団事務局宛にファックス、或いは郵便でお送り頂くと同時に、E-mailにWordファイルを添付して、当財団メールアドレスへお送り下さい。
申込期間	平成21年4月～平成21年7月10日(金) 当日消印有効)
発表	組織委員会で採否を決定し、8月中旬頃に連絡します。採用の場合は平成21年11月7日(土)会場「千代田放送会館」(東京都千代田区紀尾井町)で開催する第16回ヘルスリサーチフォーラムにおいて15分程度(含むQ&A)のご講演によるご発表となります。 詳細は採否の連絡後、お知らせ致します。
発表演題の機関誌等への掲載	フォーラムで発表された研究内容は、財団の機関誌(本誌)等へ掲載致します。 また、第16回ヘルスリサーチフォーラム講演録としてまとめ、配布致します。
演題発表のための交通費	演題が採択された場合、首都圏以外(但し海外を除く)の一般演題発表者(発表者本人のみ)には、フォーラム開催都市までの交通費を財団の規定により支給します。(宿泊費につきましては発表者の負担となります。)

ヘルスリサーチの 研究領域と例示

ヘルスリサーチとは

一人ひとりのクオリティ・オブ・ライフ（QOL）の向上を目的として、自然科学（医学、薬学、健康科学等）や社会科学（法学、経済学、社会学等）の成果を基に、全ての人にとって最適なケアを享受できるための仕組みを研究する学問です。本財団は国際的視点からのヘルスリサーチの研究を助成します。

制度・政策に関する研究

- ・ 医療・介護サービスの質の確保に関する制度の研究
- ・ 医療保険制度・介護保険制度の研究
- ・ 薬価・薬事制度の研究
- ・ 人口減少社会における医療福祉の研究
など

医療経済に関する研究

- ・ Pharmaco Economicsの研究
- ・ 医療における費用対効果の研究
- ・ 医療における技術革新の経済評価の研究
- ・ 医療経営に関する研究
など

保健医療資源の開発に関する研究

- ・ 医学教育を含むヘルスマンパワーの研究
- ・ ゲノム開発等のイノベーションと新薬開発コストに関する諸問題の研究
- ・ 新薬開発のグローバル化と薬事政策に関する国際比較研究
- ・ 医療と知的財産権に関する研究
など

保健医療の評価に関する研究

- ・ 医療の質とEBMの適用の研究
- ・ 文化・制度の違いによる疾患治療の相違の国際比較研究
- ・ 保健医療のOutcomeの研究
- ・ 医療福祉経営における品質管理手法の研究
など

保健医療サービスに関する研究

- ・ 患者・家族の精神的ケアの研究
- ・ 保健医療サービスにおけるヘルスプロモーション等の研究
- ・ 在宅医療を含む医療施設の機能評価の研究
- ・ 患者の受診行動とヘルスコミュニケーションの研究
- ・ 保健医療における危機管理の研究
など

医療哲学等に関する研究

- ・ 地球環境に関連したヘルスリサーチ
- ・ 尊厳死・死生観に関する諸問題の研究
- ・ 医療倫理・生命倫理に関する研究
など

研究助成のご応募、並びに一般演題のご応募は
まず、当財団ホームページへ

<http://www.pfizer-zaidan.jp>

平成18年度
国際共同研究

東アジアにおける増分費用効果比の閾値測定

研究期間：2006年11月1日～2007年10月31日

代表研究者：東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学 特任教授

津谷喜一郎

共同研究者：Hanyang University College of Medicine, Professor

Sang-Cheol Bae

共同研究者：Hanyang University College of Medicine,
Assistant Professor

Yoon-Kyoung Sung

一般の人々が1年追加的に生存するための支払い意志額 (willingness to pay : WTP) をインターネットを用いて調査し、薬剤経済学における増分費用効果比 (incremental cost-effectiveness ratio : ICER) の閾値 (threshold) を測定した。日本、韓国、イギリス、オーストラリアの4ヵ国で20代から50代までの男女1,000人を対象とした。WTPは二段階二項選択法を用いて、

- (1) 自分が追加的に1年生存するために支払う金額 (: WTP_{sel})
- (2) 5年後に自分が追加的に1年間生存するために支払う金額 (: WTP_{5sel})
- (3) 家族が追加的に1年生存するために支払う金額 (: WTP_{fam})
- (4) ある人が追加的に1年生存するために社会が支払う金額 (: WTP_{soc})

の4種類を質問した。得られたデータはノンパラメトリックなTurnbull法を用いて解析した。自分が追加的に1年生存するために支払う金額WTP_{sel}は約500万円(日本)、約7,000万ウォン(韓国)、約64,000ドル(オーストラリア)、約23,000ポンド(イギリス)であった。また(1)のWTP_{sel}と(2)のWTP_{5sel}の比較からアウトカムの割引率を計算すると、6.8%(日本)、3.7%(韓国)、1.9%(オーストラリア)、2.8%(イギリス)となった。4つのWTPの値を比較したところ日本と韓国ではWTP_{fam} > WTP_{soc} > WTP_{sel} > WTP_{5sel}だったが、イギリスとオーストラリアではWTP_{soc} > WTP_{fam} > WTP_{sel} > WTP_{5sel}だった。イギリスでは閾値を20,000から30,000ポンド、割引率を3.5%と設定しているが、今回の研究から各国ともこれらの値に近い数字が得られた。本研究の結果から日本での費用効果分析における閾値はWTP_{soc}(640万円)も考慮して1QALYあたり500万円から600万円程度とするのが適当であると考えられた。

成果発表：

学会発表

Shirowa T, Sung YK, Fukuda T, Bae SC, Tsutani K. International survey on WTP for one additional QALY gain - How much is the threshold of cost-effectiveness analysis. ISPOR 13th Annual International Congress, Toronto, Canada, 6 May 2008. Value in Health 2008; 11(3): A179.

Tsutani K. Willingness to pay for a QALY in East Asia. ISPOR 3rd Asian-Pacific Conference, Seoul, Republic of Korea, 9 Sep 2008.

論文

Shirowa T, Sung YK, Fukuda T, Lang HC, Tsutani K. International survey on willingness-to-pay (WTP) for one additional QALY gained: What is the threshold of cost-effectiveness?. Health Econ (Accepted).

平成18年度
国内共同研究

行政分野で働く保健師のキャリア志向の尺度開発 - 信頼性・妥当性の検討 -

研究期間：2006年11月1日～2007年10月31日

代表研究者：三重大学医学部看護学科 地域看護学講座 助教

大倉 美佳

共同研究者：三重県立看護大学 准教授

野呂千鶴子

行政分野で働く保健師（行政保健師）のキャリア志向尺度を開発し、信頼性・妥当性の検討を図ることを本研究の目的とし、10府県における行政保健師7170名を対象に、自記式質問紙による郵送の1次調査を実施した。回収数は2065名（28.8%）、有効回答数2003名（97.0%）であった。1次調査実施の約2ヶ月後、協力同意者252名（対象数の3.5%、回収数の12.2%）に対して再テストを実施した。再テストの回収数は238名（94.4%）有効回答数223名（93.75%）であった。

1次調査の結果、保健師としての経験年数は 14.5 ± 9.6 年目、府県15.1%、政令市・中核市21.5%、市町村62.2%であり、配属では保健部署が59.6%、女性が99.0%であった。保健師キャリア志向25項目についてバリマックス回転による主因子分析を行った結果、5因子19項目が選定され、各因子に管理志向、協働志向、奉仕志向、専門志向、安定志向と命名した。クロンバッハの信頼係数は $=0.863$ （各志向では $=0.612 - 0.821$ ）であり、内的整合性は良好と考えられる。しかし、保健師キャリア志向25項目に関する1次調査と再テストの回答完全一致率は平均53.8%（40.3 - 63.9%）であり、再現性・安定性を確保できたとはいきれない。今後は、求められている実践能力、役割、職務と保健師キャリア志向とを合わせて自己設計できるツールを作成し、現場での有効な運用につなげることが必要であるとする。

成果発表：

雑誌掲載

雑誌名 日本地域看護学会誌
論文標題 行政分野で働く保健師にとっての仕事の価値と基本属性との関連
著者名 大倉美佳, 城戸照彦, 佐伯和子, 表志津子, 野呂千鶴子
発行年月 2008年9月

学会発表

- 学会名 第66回日本公衆衛生学会（開催地：愛媛県）
発表テーマ 行政分野で働く保健師にとってのキャリア志向の主要な構成因子（第2報）
- 基本属性に関連するキャリア志向の特徴 -
発表者 大倉美佳, 城戸照彦, 佐伯和子, 表志津子, 野呂千鶴子
発表年月日 2007年10月26日（学会開催：10月24日～26日）
- 学会名 International Nurse Educators Conference（開催地：香港）
発表テーマ Major structural factors of career orientation for public health nurses working in administrative agencies
発表者 Mika Okura, Kazuko Saeki, Teruhiko Kido, Chizuko Noro
発表年月日 2007年11月14日～16日

平成18年度
国内共同研究

抗悪性腫瘍薬第 相試験参加を情報提供された 患者の意思決定過程に関する研究

研究期間：2006年11月1日～2007年10月31日

代表研究者：東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科

先端侵襲緩和ケア看護学 大学院生（博士後期課程）

小原 泉

共同研究者：慶応義塾大学看護医療学部 教授

武田 祐子

共同研究者：国立がんセンター東病院臨床開発センター

精神腫瘍開発部 部長

内富 庸介

抗悪性腫瘍薬第 相試験（以下、第 相試験）参加を情報提供された患者の意思決定過程とその影響要因を明らかにすることを目的に質的研究を行った。第 相試験について医師から情報提供されたがん患者を対象に半構成的面接および参加観察を行い、データを収集した。データはグラウンデッドセオリーアプローチに基づいて分析し、意思決定過程とその影響因子の構造化を試みた。分析対象患者10名（第 相試験参加者6名、不参加者4名）の意思決定過程は、【他に抗がん治療はない】【第 相試験の自分にとっての価値の見定め】【無治療でいることの恐怖】【他の治療法の探索】【決める重みとの対峙】【自分の意思を貫いて生きる覚悟】の6局面があった。6局面は直線的な過程ではなく、行きつ戻りつしながら【自分の意思を貫いて生きる覚悟】の局面に至っていた。意思決定過程への影響因子には、【過去の治療体験のふりかえり】【医師の説明】【家族の意向との折り合い】の3要素が抽出され、意思決定過程のうち【第 相試験の自分にとっての価値の見定め】に影響を与えていた。本研究の結果、第 相試験を情報提供された患者は意思決定にあたり心理的苦痛を強く体験していたことから、患者の心理的苦痛の把握と共感的理解、参加あるいは不参加の利益と不利益の個々の患者にとっての価値の明確化、自己決定の正しさの保障、意思決定後の継続支援など、看護師の果たすべき役割は大きいことが示唆された。

成果発表：

学会発表

学 会 名 Society of Clinical Research Associates

発表テーマ Patients' Decision Making for Participating in Oncology Phase Clinical Trials

発 表 者 Izumi Kohara, Hironobu Minami, Toru Mukohara, Yosuke Uchitomi,
Yuko Takeda, Tomoko Inoue

発表年月日 2007年9月28日

温故知新 - 第6回 -

財 団 助 成 研 究

... その 後

第12回(平成15年度)国際共同研究B助成採択者

千葉県立東金病院 副院長・千葉県衛生研究所 所長 天野 恵子



2003年に「性差医療：日本における性差医療の確立とそれに基づく医療サービスに対する患者の満足度と其の要因の国際比較」でファイザーヘルスリサーチ振興財団から研究助成をいただきました。性差医療とは男女比が圧倒的に男女どちらかに傾いている病態、発症率はほぼ同じでも男女間で臨床的に差を見るもの、いまだ生理的・生物学的解明が男性または女性で遅れている病態、社会的な男女の地位と健康の関連などに関する研究を進め、その結果を疾病の診断、治療法、予防措置へ反映することを目的とした医療改革です。性差医療の概念は、米国における女性の医療の見直しから始まりました。米国は1990年、女性における疾病の予防、診断、治療の向上と、関連する基礎研究を支援する目的でNIHの中に女性健康局を設置し、政府主導で大規模な疫学調査を開始するとともに、1996年から2004年にかけては、24の医科大学にCenter of Excellence in Women's Healthを設置し、上記の目的に添った医療人材の教育、医療サービスの展開、臨床ならびに基礎研究を推し進めてきました。其の動きを日本へ1999年に紹介し、2001年に「性差を考慮した医療の実践の場としての女性外来」を鹿児島大学と千葉県立東金病院に開設しました。2002年には、性差医療・医学研究会ならびに性差医療情報ネットワークを立ち上げ、前者では医学教育の中への性差の視点の導入を、後者では女性外来担当医師の教育を目指しました。2003年にファイザーからの研究助成を得て、全国に展開する女性外来の患者データをファイリングする作業に入りました。2001年から2003年までの東金病院女性外来受診者のデータをもとに、患者の主訴・症状、医師による介入効果を経時的にフォローするシステムを作成し、東金病院での試運転、システムの再考を行いながら、2006年より12施設の参加のもと稼働しています。其の結果、女性外来では、全年齢層にわたって精神疾患が3割を超えること、医療介入の効果が大きく、患者満足度が高いこと、漢方薬の使用率が高いなどが明らかとなっています。患者満足度に影響があった項目は、高い順に「患者の話を聞く医師の姿勢」「医師の説明のしかた」「医師の経験や知識量」でした。米国のCenter of Excellence in Women's Healthの現状も視察しましたが、米国では1970年代から医療サービス向上の対象は女性であり、1990年代からはさらに女性のライフサイクルと疾患に関するエビデンスの構築を目指した施策が展開されており、日本における女性医療の遅れを痛切に感じました。幸いにも、この数年日本でも女性外来が認知され始め、「性差」という概念は医学会のみならず社会にも浸透しつつあります。日本における性差医療のまだ駆け出しのころに、貴財団より研究資金を得て、大きく研究を進めることが出来たことに感謝しています。



第15回ヘルスリサーチフォーラム
及び
平成20年度研究助成金贈呈式
を開催

平成20年11月15日(土)千代田放送会館(東京都千代田区紀尾井町)にて、約170名の参加者による第15回ヘルスリサーチフォーラム及び平成20年度研究助成金贈呈式が開催されました。今回も、好評だった前回同様、メインホールでの発表(ホールセッション)に加えて、昼食時に4会場に分かれてポスター形式によるランチョンセッションが実施されました。今回は昼からの開催となり、ホールセッション、ランチョンセッションともに、密度の濃い発表が行なわれました。また、フォーラム終了後は情報交換会が開催され、参加者相互の人的ネットワーク作りの機会が提供されました。(この項敬称略)

1 開会挨拶

12:00 ~ 12:15

財団法人 ファイザーヘルスリサーチ振興財団 理事長
財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 専務理事

島谷 克義
岡部 陽二

2 フォーラム(ランチョンセッション - 4会場同時開催 -)

12:25 ~ 13:17

テーマ: 医療と評価

A会場



座長: 福原 俊一
京都大学大学院医学研究科 医療疫学分野 教授

難病患者を対象とした「IPS (Individual Placement and Support)」モデルに基づく保健・医療と就労の総合支援プログラムのインパクトに関する評価研究

東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 健康社会学分野 大学院生 伊藤 美千代

近年、難治性疾患(以下、難病)のある人の生活の質の向上と、その延長としての就業への高いニーズへの対応が重視されている。難病のある人には保健・医療と、生活、就業など複雑なニーズに対応したこれらの支援の統合が必要であるが、我が国での実績はほとんどない。本研究では、就業支援モデル事業をたちあげ、支援によるアウトカムへのインパクトを明らかにすることから、難病のある人の就業支援における課題を示すことを目的とした。

医療経済および患者や家族側の顧客満足度の観点からの在宅症例の解析・評価、最適化した在宅医療の提供に関する研究

筑波大学大学院人間総合科学研究科 呼吸病態医学分野 講師 森島 祐子

高齢化社会におけるケアシステムとして在宅医療が提唱されており、その中で大きなテーマの一つが、在宅死をいかに安らかに迎えるかである。本研究では、看取りも含めた在宅医療に積極的に取り組んでいる医療機関での診療実績をまとめ、いかに最適化されたサービスを患者、家族に提供できるかについて考察する。

治療適切性評価法(Appropriateness method)により、日本の循環器・心臓外科専門家により冠動脈疾患に対する治療の適切性基準を作成し、この基準を元に実地診療実態を分析する。

国家公務員共済組合連合会虎の門病院 院長 山口 徹
代理発表者: 国立がんセンター・がん予防検診研究センター検診研究部 研究員 東 尚弘

患者数、治療処置数を、医療の質の代理変数としてとらえる近年の傾向は、これらの治療の適応が一定の基準に沿ってなされていることを前提としており、これを検証することは、わが国の診療実態を今後改善していく上で必須のことである。そこで、手技・手術の適応適切性評価基準を作成する国際的標準的手法である、デルファイ変法に沿った形でPCIと冠動脈バイパス術の適応の適切性基準を作成し、検証した。

臨床評価過程における累積情報の統合的活用に向けた統計基盤の研究

大阪大学臨床医工学融合研究教育センター 特任准教授(常勤) 寒水 孝司

本研究では、近年提案されている統計的方法論の特徴・性能、実用化の条件を理論的・実的に明確にし、累積された科学的根拠・情報を適応的に臨床評価の過程に利用するための統計基盤について検討した。具体的には、研究の実施にあたり、統計数理研究所 重点型共同研究 科研費補助金シンポジウム「臨床研究における医学統計学の新展開」で本研究課題に関連するセッションを設け、日本の臨床試験の問題点や最新の研究成果を整理し、その上で、適応的試験計画、複数の主要評価変数への対処、データ適応型生存時間解析に焦点を絞り、種々検討を行った。

印は平成17年度の国際総合共同研究助成による研究 /
印は平成16年度の国際共同研究助成による研究 / 印は平成17年度の国際共同研究助成による研究 / 印は平成18年度の国際共同研究助成による研究 /
印は平成16年度の国内共同研究助成による研究 / 印は平成17年度の国内共同研究助成による研究 / 印は平成18年度の国内共同研究助成による研究 /
無印は平成20年度一般公募演題

テーマ：コミュニケーション・精神医療

B会場

座長：宇都木 伸
東海大学法科大学院 教授

統合失調症認知機能簡易評価尺度（BACS）日本語版の作成

岩城クリニック 心療内科 院長 兼田 康宏

統合失調症患者の社会機能に及ぼす影響に関しては、認知機能障害が精神症状以上に重要な要因であると考えられつつある。この認知機能の評価に関して最近開発された統合失調症認知機能簡易評価尺度（BACS）は、言語記憶・ワーキングメモリ・運動機能・注意・言語流暢性・遂行機能を評価する6つの検査で構成され、所要時間約30分と実用的な認知機能評価尺度である。本研究では、臨床応用のために我々が作成したBACS日本語版（BACS-J）の信頼性および妥当性につき検討し、比較的多数例の慢性統合失調症患者および健常被験者の認知機能の評価した。

患者、患者家族、医療者の暗黙知を形式知にすることで相互のコミュニケーションの向上を図り、学問とすることで医療メディエーターを育成し、患者、患者家族、医療者の間にはいり相互の信頼関係の構築を補助する。

東京大学医科学研究所 探索医療ヒューマンネットワークシステム部門 教員 田中 祐次

医療において、患者と医療者との関係を改善することが求められており、そのためには医療者、患者、患者家族、それぞれの間の理解を深める必要がある。今まで認識されることのなかった「暗黙知」を「形式知」にすることが、両者に「気づき」をもたらす、相互理解につながるかと考えて、多数のインタビューを情報工学的手法を用いて解析し、「気づき」の発見作業を行ってきた。今回は、パイロットケースとして行った「骨髄移植ドナーに選ばれなかった同胞のストレス要因の検討」について報告する。

児童・生徒の攻撃性と、その背景因子についての研究 ～若者はなぜ「キレル」のか～

浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター 特任助教 土屋 賢治

若年者の「キレやすさ」が今日的な問題としてクローズアップされ、また、ストレスや、インターネット、携帯電話の普及と関連付けられて語られることも多い。しかし、本当に「キレやすい」のか、また他の心理社会的要因とどう関連しているのかについてのデータは提示されていない。そこで、「キレやすさ」を外に向けた攻撃性として定義し、若年者を対象とする大規模な横断的調査を施行した。攻撃性を定量評価するとともに、攻撃性との関連が疑われる心理社会的要因としての抑うつ、ストレス対処能力、共感性、携帯電話やインターネットの使用状況を評価し、攻撃性との関連の検証を目指した。

重大な他害行為を行った触法精神障害に関し、個体の脆弱性や環境ストレス等の相互要因、治療技法や効果判定、再発防止策に必要とされる医療体制ならびに法制度について、国際的な疫学調査および比較研究を実施する。

国立精神・神経センター精神保健研究所 司法精神医学研究部 部長 吉川 和男

専門医療としての司法精神医療サービスは世界的な発展を続けている。概してその規模は少数で患者の回転率も緩やかなものではあるが、複数の拠点から得たデータを収集することで、その効果、安全性、費用効果に関する研究が可能となる。再犯は依然として重要な測定結果ではあるが、人口統計学的差異や広汎な状況の差異により影響を受ける。本研究では9カ国における治療哲学の背景を比較し、症例分析を行った。

テーマ：医療と地域

C会場

座長：中村 安秀
大阪大学大学院人間科学研究科 教授

小児感染症：流行現状把握・流行予測のアルゴリズムの検討 - 地域におけるウイルス感染症流行の把握 -

酪農学園大学大学院 特任教授 / 北海道立衛生研究所 再任用研究職員 長谷川 伸作

感染症の流行を監視し、有効な対策を立て、未然に防止するためには、迅速かつ総合的なデータ集計・解析を行い、一目で理解できる情報を組み立て、遅滞なく求める地域に提供する必要があります。本研究では、疾病発生・流行状況の資料提供ならびに小児感染症の市中発生動向の掌握や感染症流行の早期検知を目的として、感染症発生動向調査の地域別患者データにおける患者発生の現況把握、流行予測のアルゴリズムならびに近接区域や他府県間の流行伝播解析について検討した。

市町村合併による過疎地医療機能の変化とその対策に関する研究

浜松医科大学医学部医学科 地域医療学講座 特任助教 古本 尚樹

いわゆる「平成の大合併」により自治体合併が実施された。これにより地域の保健・医療・福祉サービスは変化を余儀なくされている。そこで、本研究では、市町村合併により、保健・医療・福祉サービスがどのように変化したかを明示するため、行政内組織・職員の変化と住民への影響を調査した。自治体合併した地域において、住民に直接接する機会が多い（すなわち現場に出る機会が多い）保健師を中心に聞き取り調査を行なうことにより、行政内部の変化及び住民への影響を明らかにした。

歯科と医科の連携とともなうメリットと課題 ～夕張希望の杜のケース～

医療法人財団 夕張希望の杜 夕張医療センター 歯科診療部 部長 八田 政浩

高齢者の肺炎の多くは口腔常在菌の嚥下による誤嚥性肺炎である。要介護高齢者に対する口腔ケアにおいて、歯科医、医師の積極的介入群と非介入群では、2年間の誤嚥性肺炎発症率はそれぞれ11%と19%であり、介入により肺炎が40%減少する。また、高齢者の肺炎の入院治療費は50万円かかる。そこで、「夕張希望の杜」では、歯科と医科が綿密な連携を取ることで老健入所者全員に口腔ケアを徹底したが、本研究で、その医療費削減効果および介入前後における利用者のQOLを比較検討した。

「児童虐待発生予防推進を目指した資源開発」第2報

1. 妊娠期から潜在SOSに気づくためのツール開発
2. 潜在SOSに気づき、児童虐待発生予防に資する保健師の支援技術の向上

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構安全部 医療機器安全課 疋田 理津子

近年、深刻な死亡事例が後を絶たない児童虐待の発生予防の推進のためには、妊娠期から予防的介入が必要な対象に、タイムリーな支援を実現することが必要である。今回その早期介入を推進するためのアンケートを開発したが、このツールを活用して行った早期介入支援の実際を通じて、本研究でツールとしての定性的な評価を行った。



座長：岩崎 榮

NPO法人卒後臨床研修評価機構 専務理事 / 日本医科大学法人顧問

薬剤経済学において増分費用効果比がいくら以下なら費用対効果に優れているといえるか、各国の保険償還にも影響する可能性のあるその閾値を日韓を中心とした東アジア地域でインターネット調査により測定する。

東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学 特任教授 津谷 喜一郎

薬剤経済学的分析の結果は、増分費用効果比（ICER）を用いて提示するのが一般的だが、どのくらいのICERならcost-effectiveと言えるか、東アジアではその閾値についての合意が得られていない。イギリスは2万-3万ポンド、米国は5万ドルないしは10万ドルともされているが、明確な根拠はない。そこで本研究ではインターネット調査により日本・韓国・台湾・イギリス、オーストラリア・アメリカの6カ国で閾値の測定、比較分析を行った。

薬物治療に関するインシデント・アクシデント事例ライブラリーの構築とその活用

東京大学大学院薬学系研究科 医薬品情報学講座 特任講師 堀 里子

医療現場では、投薬ミス、薬物治療の失敗、更にそれらのヒヤリハットといった問題が毎日のように生じている。それにもかかわらず、医学・薬学の専門知識だけでは解決の困難な事例をシステムティックに分析した研究は少なく、リスクマネジメントのための具体的な方法論も確立されていない。そこで本研究では、医療現場から投薬ミスにつながるようなヒヤリハット事例を大規模に収集し、個々の事例の要因解析やパターン分析を行うことで、投薬ミス防止のノウハウを見出すことを目的とした。

薬剤処方行動学の研究

～日本における医師の処方行動に関する研究および諸外国における処方システムの動向調査～

大分大学医学部附属病院臨床薬理センター 副センター長 森本 卓哉

これまで医師教育では薬剤処方に関して、P-drugなどの散発的な実習のほか、系統的かつアカデミックな医学分野としての背景がなかった。本研究では、「薬剤処方行動学」という研究領域を設けることを最終的な目標として、医師の薬剤処方行動における影響因子やその程度を検討して、モデル化を行い、合理的で効果的な処方行動を行うことができる処方システムの探求を行う。

在宅高齢患者に対する薬剤の実態と安全性に関する研究

国立保健医療科学院 疫学部 協力研究員 庭田 聖子

欧米では「高齢者に対して避けることが望ましい薬剤処方」(PIM)を定義したBeers criteriaに基づいて、その頻度および関連要因が調べられてきた。本研究では、わが国の在宅高齢患者に対する薬剤処方の実態を把握し、より有効性と安全性の高い薬物治療を推進することを目的として、PIMとrisk factorの関連を検討した。その結果、わが国の在宅高齢患者におけるPIMの実態を初めて明らかにすることができた。



ランチョンセッション (A会場)



ランチョンセッション (B会場)



ホール発表 (メイン会場)



ランチョンセッション (C会場)



ランチョンセッション (D会場)



3 フォーラム（ホール発表）

13:35 ~ 16:50

テーマ：医療における費用対効果

座長：矢作 恒雄
慶應義塾大学 名誉教授

睡眠時無呼吸症候群のスクリーニングとその予防の費用効果についての日米比較疫学研究

愛媛大学大学院医学系研究科 医療環境情報解析学講座 公衆衛生・健康医学分野 教授 谷川 武進
代理発表者： 同 講師 櫻井 進

睡眠呼吸障害（SDB）は、産業災害や循環器疾患の重要な危険因子である。本研究は、日米地域集団において睡眠時無呼吸症候群（SAS）スクリーニングを実施し、その頻度およびSDBに関連する因子を比較検討することを目的とした。40歳以上の日本人全体では600万人以上のSDBが潜在している可能性があり、本研究による費用効果分析結果を元に対象者全員に減量プログラムやCPAP治療を実施したとすると、3年間に交通事故関連費用だけで5280億円の経済効果につながると推計された。

新薬への薬剤経済評価の活用方法に関する国際比較研究

財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 研究部長 福田 敬

先進各国においては、薬剤費適正化の観点から、後発品の使用促進を図る一方、費用対効果に優れた新薬の患者へのアクセスを向上させる考え方が主流となってきている。そこで、新薬の薬剤経済評価の反映方法について、各国の薬剤給付制度や産業政策の観点から諸外国の状況を調査し比較することにより、日本における新薬の薬剤経済評価の反映方法について検討することを目的として研究を行った。

低侵襲人工股関節全置換術の医療経済分析

湘南鎌倉人工関節センター センター長 / 横浜市立大学 非常勤講師 平川 和男

わが国における従来型人工関節全置換術（THA）と低侵襲THA（MIS-THA）における合併症リスクと医療費に関する報告をまとめ、また合併症発生を考慮した予後モデルにより、従来型THAとMIS-THAの医療経済性の比較を行った。各合併症発生率はMIS-THA群の方が従来型THA群よりも低い結果であり、また、合併症発生率を考慮した期待医療費はMIS-THAにより1例あたり71万円～84万円の医療費削減が期待される結果となった。感度分析の結果からは、MIS-THAの合併症発生率は従来型THAの8.7倍（有床診療所）6.6倍（DPC導入病院）までは費用削減が維持されることが示された。

ゲノム情報に基づく個別化適正医療が、臨床的および社会的有用性を実現するための条件を明らかにする。

基礎データ収集のため、NAT2遺伝子多型による抗結核薬投与設計の費用対効果研究を日本・ドイツ共同で行う。

大阪大学大学院薬学研究所 臨床薬効解析学分野 教授 東 純一
代理発表者： 大阪大学大学院薬学研究所 臨床薬効解析学分野 大野 雅子

ゲノム情報を活用した個別化適正医療の必要な情報の一つに、遺伝子多型の判定を始めとする日常診療におけるファーマコゲノミクス(PGx)の実践に要する費用が挙げられる。そこで本研究では、抗結核薬イソニアジド(INH)の代謝酵素N-acetyltransferase2 (NAT2)の遺伝子多型からINHの投与量群を層別化し、費用対効果の観点から遺伝子情報に基づく個別化適正医療の保健医療への導入に必要な要因を検討することを目的とした。

テーマ：医療の質とヘルスマンパワー

座長：平野 かよ子

東北大学大学院 医学系研究科 教授



少子高齢化社会における看護労働力需給ギャップとその是正策に関する国際比較分析

～看護就労におけるワーク・ファミリーコンフリクト、労働市場環境、および看護医療の質を考慮して～

同志社大学 技術・企業・国際競争力研究センター センター長・教授 中田 喜文

国際的にも深刻な需給ギャップが存在し、それが引き金となり看護労働の国際移動が大きな流れとなっている。本研究では、1) 看護労働需給ギャップのメカニズムを、市場構造を規定する国家の医療政策・制度と労働需給の規定要因の両面から明らかにし、2) このギャップを解消する方策として、国外看護労働力の受け入れと国内潜在労働力の顕在化、それぞれの対策が持つ有効性と課題を、海外の経験の分析を通して検討し、3) 対策の違いが、わが国の医療の質と国民のQOL向上にどう寄与するかを、労働経済学、医療経済学、看護学の専門的視点を融合しながら分析した。

医療コミュニケーションスキルと臨床推論能力は医学的知識が増えるにつれてどのように変化するか

東京大学医学教育国際協力研究センター 講師 大西 弘高

医療における患者医師関係について医療面接教育の重要性が高まっている。医療面接においては、情報収集が適切なコミュニケーションスキルと共に行われる必要があるが、初学者においては、情報収集において臨床推論に関する思考が増えると、コミュニケーションスキルに十分な配慮ができなくなる可能性がある。本研究は、この仮説を検証するために実施した。

臨床指標を用いた医療パフォーマンス評価は、医療の質を向上させるための有力な手法である。日米の代表的な事業についてその比較研究を実施する。

特別医療法人社団 時正会 佐々総合病院 理事長 佐々 英達
代理発表者： 社団法人全日本病院協会 常任理事 / 財団法人東京都医療保健協会練馬総合病院 院長 飯田 修平

全日本病院協会は、約20病院が参加する日本で唯一のアウトカム評価事業（診療アウトカム評価事業）を2002年から運営している。本研究では、日米の代表的なアウトカム評価事業として、日本の診療アウトカム評価事業、米国メリーランド病院協会IQIP（International Quality Indicator Project）に、日本の数病院が参加して、両者の、評価モデル、臨床指標、データ構造などを比較検討した。アウトカム評価の社会的活用として、米国における医療の質に基づく支払、日本における医療計画を対象に事例調査を実施し、今後の方向を示した。

行政分野で働く保健師のキャリア志向の尺度開発 ～信頼性・妥当性の検討～

三重大学医学部看護学科 地域看護学講座 助教 大倉 美佳

行政組織の変革および地域における健康課題の変換によって、行政分野で働く保健師（行政保健師）は、自身が仕事の何を重要と考えるのか（キャリア志向）を見定め、これまで以上に主体的にその専門性を確立していくことが重要である。本研究は、行政保健師にとってのキャリア志向に関する尺度を開発し、その信頼性を検討することを目的とした。その結果、行政保健師にとってのキャリア志向は、4つからなる職能に関する志向と、安定志向の2軸から構成されると考えられた。

テーマ：がんとヘルスリサーチ

座長：小堀 鷗一郎

国立国際医療センター 名誉院長



外来定期受診によるがんの早期発見プログラムの費用効果分析 - 肝細胞癌に対する治療戦略の日米差からみた評価 -

山口大学医学部附属病院 医療情報部 准教授 石田 博

日本において肝細胞癌で年約3万人が亡くなっており、この約7割はHCV肝炎に起因している。我が国ではC型慢性肝炎に対する抗ウイルス療法による肝硬変症等への進展予防、肝細胞癌の早期発見による早期治療が標準診療となっており、その一環として腫瘍マーカーや超音波等による定期的なスクリーニング検査が日常外来診療の中で一般的に行われているが、米国ではスクリーニングによる早期発見・早期治療は費用対効果の観点から標準的医療として定着していない。これまでの費用対効果の研究はすべて欧米からの報告であり、欧米と日本との治療戦略の違いなどを踏まえ、日本の実際の治療データをもとに費用効果分析を行った。

抗悪性腫瘍薬第 相試験参加を情報提供された患者の意思決定過程に関する研究

東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科先端侵襲緩和ケア看護学 大学院生（博士後期課程） 小原 泉

抗悪性腫瘍薬第 相試験の目的は薬物有害反応を評価し最大耐用量を決定することであり、期待される治療効果は未確定である一方で薬物有害反応が必発する。先行研究によれば、第 相試験参加患者の参加動機は治療的利益を得ることであり、臨床試験そのものの目的である治療法開発への社会的貢献を理由に参加する者は少ない。したがって第 相試験は、十分な情報提供に基づく患者の主体的な意思決定が不可欠であり、それを支援することは臨床における重要な課題である。本研究は、第 相試験参加を情報提供された患者の意思決定過程とその影響要因を明らかにすることを目的とした。

日本、韓国、米国での回想法の内容分析を元にして日本人特有の考え方や精神性（スピリチュアリティ）を明らかにし、日本人のがん患者に特化した回想法の開発を行う。

聖マリア学院大学 看護学部 教授 安藤 満代

終末期のがん患者は、生きる意味の喪失や、自己の存在の意味の喪失といったスピリチュアルペインを感じることもある。そのような苦痛に対するケアとして、人生を回想する「短期回想法」を開発してきたが、この介入のプログラムは開発途中であり、さらに発展させる必要があった。そこで本研究では、日本、韓国、米国において短期回想法を実施して国際比較を行う中で、日本人特有のスピリチュアリティを明らかにし、より日本人に特化した短期回想法のプログラムを開発することを目的とした。

文化・喫煙環境が異なる日本と中華人民共和国（政治経済都市・工業都市・農村部）での肺癌発生・組織型の違いを調査し、肺癌早期発見のための方策とその実施時の経済効果について比較研究する。

東京医科大学 名誉教授 / 国際医療福祉大学大学院 教授 / 医療法人社団武蔵野会新座志木中央総合病院 名誉院長 加藤 治文

肺癌は日本を含め多くの諸国で悪性腫瘍による死因の第1位を占めるが、環境や喫煙などの要因により国ごとに肺癌の発癌過程・肺癌組織型に差異が見られる。中華人民共和国は日本と同じ東アジアに位置するが、環境要因や喫煙状況は大きく異なる。また、中国国内だけを見ても都市部・工業地帯・農村でこの状況は異なるといわれている。このような背景の下で日中間あるいは中国国内で肺癌の発癌過程や組織学的差異を検討し、さらに日本で行われている早期発見のための手法(特に喀痰細胞診)の中国導入による効果および医療経済に及ぼす影響について検討する。

4 第17回（平成20年度）研究助成金贈呈式

17:05 ~ 17:45

来賓挨拶

厚生労働省大臣官房厚生科学課長

矢島 鉄也 氏

ファイザー株式会社代表取締役社長

岩崎 博充 氏



左から、矢島鉄也氏、岩崎博充氏、永井良三氏

第17回（平成20年度）助成案件選考経過・結果発表

選考委員長 永井 良三氏（東京大学大学院医学系研究科内科学専攻循環器内科 教授）より、助成応募状況と選考の経過・結果について説明されました。

（採択者リスト：本誌P14～P15に掲載）

	応募 (単位:件)		採択 (単位:件、千円)			
	第17回	第16回	第17回		第16回	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
国際共同研究	70	70	7	30,600	6	26,600
若手国内共同研究	113	78	15	29,400	8	15,290
計	183	148	22	60,000	14	41,890



贈呈風景

研究助成金贈呈式

財団島谷理事長より、研究助成採択者に贈呈状が手渡されました。



本年度の助成採択者

5 情報交換会

17:50~

フォーラム終了後は情報交換会が開催されました。

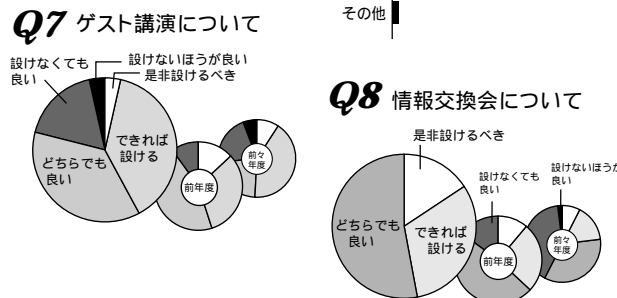
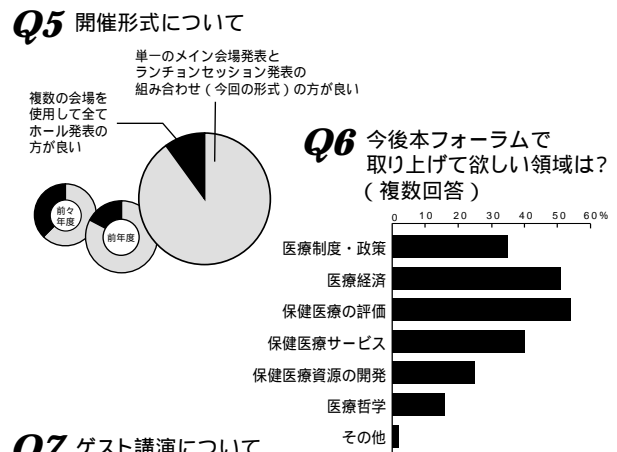
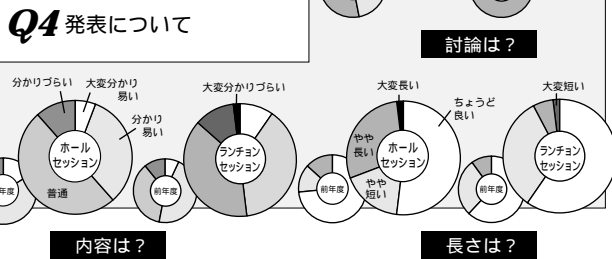
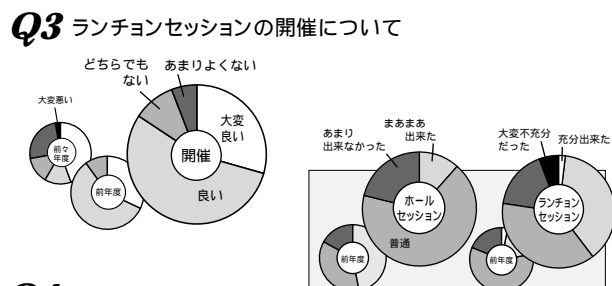
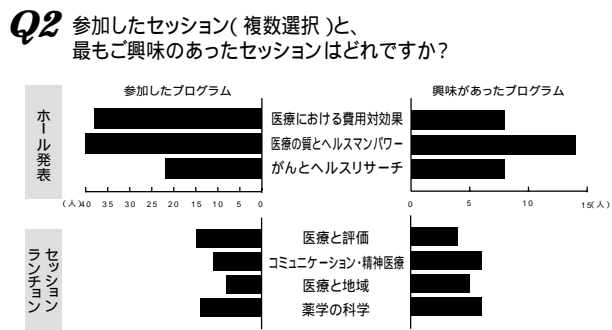
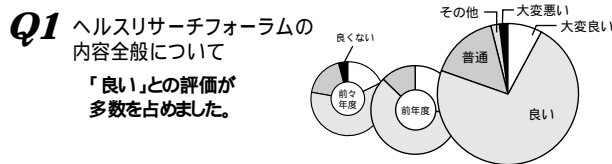


乾杯の音頭を取られる平野かよ子氏

本フォーラムの内容をまとめた講演録をご希望の方は本誌に同封の申込書にて財団事務局までお申し込み下さい。
(尚、当日フォーラムにご参加された方には、3月下旬に既にご送付致しております。)

第15回ヘルスリサーチフォーラム アンケート結果報告
及び平成20年度研究助成金贈呈式

第15回ヘルスリサーチフォーラムの会場で行ったアンケートの結果は以下の通りでした。(回答数は51件でした。)



ご意見・ご希望

相変わらずランチョンセッションに対する高い評価のコメントが寄せられるとともに、全般的にも「素晴らしい取り組みだと思ふ。今後も続けて欲しい。」との意見をいただきました。その一方で「メインテーマに関連する特別講演を設けて欲しい」とのご意見や、財団活動に対して「若い研究者や留学生の補助も検討していただきたい」とのコメントが寄せられました。

このアンケート結果を参考にして、財団の活動をより良くするとともに、今後ますます充実したヘルスリサーチフォーラムにしていきたいと思ひます。ご協力ありがとうございました。

第17回(平成20年度)助成案件 採択一覧表

(順不同・敬称略)

平成20年度 国際共同研究採択者

水巻 中正(みずまき ちゅうせい)

国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究所 大学院教授
 研究テーマ 東アジアの国際病院と患者の国際的流動化
 - 日本の医療への影響 -
 共同研究者 ウォンコムソン ソムアツ
 共同研究者 バンコック国際病院 副院長(タイ)
 南 商亮
 柳韓大学 病院管理学教授(韓国)
 共同研究者 武藤 正樹
 国際医療福祉大学 大学院教授
 助成金額 4,500,000円 本研究期間 09.1.1 ~ 11.1.1

奥野 純子(おくの じゅんこ)

筑波大学大学院人間総合科学研究所 福祉医療学 講師
 研究テーマ 高齢介護者の老老介護の負担感に影響する民族間の違いと
 環境要因の検討 - 朝鮮族、漢民族、日本人との比較 -
 共同研究者 柳 久子
 筑波大学大学院人間総合科学研究所福祉医療学
 准教授
 共同研究者 Kaigen Ken
 延辺大学看護学院 講師(中国)
 助成金額 4,500,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.30

石橋 智昭(いしばし ともあき)

慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室 助教
 研究テーマ 訪問介護による生活援助と機能状態の関係: デンマークに
 おけるパネルデータの検証からみた今後の日本の介護予
 防施策
 共同研究者 山田 ゆかり
 University of Copenhagen (Denmark)
 Guest Researcher
 共同研究者 Kirsten Avlund
 University of Copenhagen (Denmark)
 Associate Professor
 共同研究者 Mikkel Vass
 University of Copenhagen (Denmark)
 Associate Forsker
 助成金額 4,500,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

加茂 登志子(かも としこ)

東京女子医科大学付属 女性生涯健康センター 教授、所長
 研究テーマ 家庭内暴力被害母子を対象とした「親子の相互交流療法
 (Parent-Child Interaction Therapy)」の治療効果評価と
 その日米比較
 共同研究者 金 吉晴
 国立精神・神経センター 精神保健研究所
 成人精神保健部 部長
 共同研究者 笠原 麻里
 国立成育医療センター こころの診療部 育児心理科 医長
 共同研究者 Frank Putnam
 Children's Hospital Medical Center (USA)
 Professor of Pediatrics and Psychiatry
 助成金額 3,600,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

荒井 陽一(あらい よういち)

東北大学大学院医学系研究科・泌尿器科学分野 教授
 研究テーマ 日本人及び日系米国人における前立腺癌患者QOLについて
 国際比較研究を行う。特に性機能および排尿機能などの
 疾患特異的QOLにおける両国の文化的差異について明ら
 かにする。
 共同研究者 並木 俊一
 大崎市民病院泌尿器科
 東北大学学部非常勤講師
 共同研究者 深貝 隆志
 昭和大学医学部泌尿器科 准教授
 共同研究者 Robert G. Carlile
 The Queen's Medical Center (USA)
 Clinical associate professor
 助成金額 4,500,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

川越 厚(かわごえ こう)

ホームケアクリニック川越 院長
 研究テーマ 地域緩和ケアシステムにおける、在宅ホスピスボランテ
 ィアの育成と役割に関する国際比較研究
 副題: わが国の歴史・文化・風土の中で育むべき在宅ホ
 スピスボランティア組織に関する研究
 共同研究者 Kenneth Zeri
 Hospice Hawaii (USA)
 President, Chief Professional Officer
 共同研究者 Julie Paul
 Banksia Palliative Care Service (Australia)
 Executive Officer
 共同研究者 川越 博美
 バリアン在宅ホスピス・緩和ケア研修センター(聖路加
 看護大学 兼任)(臨床教授)
 助成金額 4,500,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

近藤 正晃ジェームス(こんどう まさあきらじゅーむす)

特定非営利活動法人 日本医療政策機構 副代表理事 兼 事務局長
 研究テーマ 日本の医療に関する世論調査とその医療政策決定プロセ
 スに対する影響に関する研究 - 国際比較検討
 共同研究者 坂野 嘉郎
 特定非営利活動法人 日本医療政策機構
 共同研究者 小野崎 耕平
 ハーバード大学アジアセンター(USA)
 フェロー (Health Policy and Politics)
 共同研究者 富塚 太郎
 ロンドン大学衛生熱帯医学大学院・経済政治学大学院
 (大ブリテンおよび北アイルランド連合王国)
 医療政策・計画・財政学修士課程
 助成金額 4,500,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

合 計 件数 7 件 金額 30,600,000円

平成20年度 国内共同研究採択者

錦織 宏(にしごり ひろし)

東京大学医学教育国際協力研究センター 助教
 研究テーマ 大学コンソーシアムによる模擬患者養成のための教育プロ
 グラムの開発およびその評価の研究
 共同研究者 山脇 正永
 東京医科歯科大学医学部附属病院臨床教育研修センター
 准教授
 助成金額 2,000,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

五十嵐 中(いがらし あたる)

東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学講座 特任助教
 研究テーマ 日本における慢性閉塞性肺疾患(COPD)治療薬チオトロ
 ビウムの薬剤経済学的評価研究
 共同研究者 福田 敬
 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻 准教授
 共同研究者 西村 正治
 北海道大学大学院医学研究科 教授

共同研究者 津谷 喜一郎
 東京大学大学院薬学系研究科 医薬政策学 特任教授
 助成金額 2,000,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

柴田 ゆうか(しばた ゆうか)

広島大学病院薬剤部 臨床薬剤師
 研究テーマ 医療消費者、薬剤師および医師の後発医薬品選択に影響
 する重要因子の抽出 - 2008年4月の処方せん様式変更以
 降の意識調査 -
 共同研究者 池田 博昭
 広島大学病院 臨床研究部 副部長
 共同研究者 佐和 章弘
 広島国際大学 薬学部 薬学科 准教授
 共同研究者 野村 祐仁
 広島市薬剤師会 会長
 助成金額 2,000,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

松本 正俊 (まつもと まさとし)

自治医科大学地域医療学センター 地域医療学部門 講師
 研究テーマ 医師数および医師の地理的分布の変遷を過去25年間に渡って分析し、日本における医師偏在の経時的プロセスを明らかにし、諸外国のそれと比較する。また医師分布に影響を与える諸因子の分析も行う。
 共同研究者 野口 都美
 東京大学大学院 医学系研究科 公衆衛生学 博士後期課程2年生
 共同研究者 豊川 智之
 東京大学大学院 医学系研究科 公衆衛生学 助教
 共同研究者 井上 和男
 東京大学大学院 医学系研究科 公衆衛生学 准教授
 助成金額 2,000,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

米倉 佑貴 (よねくら ゆうき)

東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻 健康社会学分野 博士後期課程
 研究テーマ 慢性疾患自己管理支援プログラムCDSMP(Chronic Disease Self-Management Program)の効果の非無作為比較試験による検討
 共同研究者 戸ヶ里 泰典
 山口大学大学院 医学系研究科 環境保健医学分野 助教
 助成金額 2,000,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

樋口 ゆり子 (ひぐち ゆりこ)

京都大学大学院 薬学研究所 薬品動態制御学分野 特定研究員
 研究テーマ ジェネリック医薬品への変更の経済効果
 共同研究者 柴田 敏之
 京都大学大学院 薬学研究所 統合薬学フロンティア教育センター 教授
 助成金額 2,000,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

渡辺 玲奈 (わたなべ れいな)

北海道大学大学院 保健科学研究院 基盤看護学分野 助教
 研究テーマ 看護師動線および看護必要度に基づく看護視点の再構築 - 急性期病棟におけるICU病棟、CCU/HCU病棟、一般病棟での比較 -
 共同研究者 中山 茂樹
 千葉大学大学院 工学研究科 教授
 共同研究者 鳥山 亜紀
 清水建設株式会社 設計本部 医療福祉施設設計部 設計長
 助成金額 1,830,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

藤澤 由和 (ふじさわ よしかず)

静岡県立大学 経営情報学部 公共政策系 准教授
 研究テーマ 医療分野における紛争処理および補償制度の国際比較研究
 共同研究者 我妻 学
 首都大学東京 都市教養学部 法学系 教授
 共同研究者 岩田 太
 上智大学 法学部 国際関係学 教授
 助成金額 1,970,000円 本研究期間 08.4.1 ~ 09.10.31

銭谷 聖子 (ぜにたに さとこ)

東京大学大学院 医学系研究科 公共健康医学専攻 医療コミュニケーション学教室 専門職大学院修士課程2年
 研究テーマ 成人のための新規食育システムの開発 - 「非接触ICカード(電子マネー)を利用した食事記録・健康管理システム」を用いた食生活ハイリスク者のスクリーニングと対象者別介入メッセージの作成
 共同研究者 青木 則明
 The University of Texas (USA)
 Assistant Professor
 共同研究者 村上 進
 ルリユール・アンテリユール L.L.P 組員
 助成金額 1,700,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

鄭 丞媛 (ジョン スンウォン)

日本福祉大学 アジア福祉社会開発研究センター 客員研究員
 研究テーマ リハビリテーション医療における「医療の質」の病院間比較研究 - リハビリテーション患者データバンクのデータを用いて -
 共同研究者 近藤 克則
 日本福祉大学大学院 社会福祉学 研究科 研究科長
 共同研究者 白石 成明
 日本福祉大学健康科学部 准教授
 共同研究者 Jeffrey Soar
 University of Southern Queensland (Australia)
 Associate Professor
 助成金額 2,000,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

松村 有子 (まつむら ともこ)

東京大学医科学研究所 探索医療ヒューマンネットワークシステム部門 特任助教
 研究テーマ 多様なメディアが相互に影響し合いながら、専門性の高い医療情報が非医療者である国民に伝わり社会コンセンサスを形成しつつある。その実例を実証研究しメディアチェーンの実態を明らかにする。
 共同研究者 成松 宏人
 日本対がん協会 がん対策のための戦略研究推進室 室長補佐
 助成金額 2,000,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

新 恵里 (あたらし えり)

京都産業大学 法学部 講師
 研究テーマ 突然の死に直面した遺族へのケア体制に関する研究 - スウェーデンとの比較から -
 共同研究者 矢野 恵美
 東北大学国際高等融合領域研究所 助教
 助成金額 2,000,000円 本研究期間 08.11.20 ~ 09.10.31

山田 奈美恵 (やまだ なみえ)

東京大学大学院 医学系研究科 トランスレーショナルリサーチセンター 橋渡し研究支援推進プログラム 特任助教
 研究テーマ 医療安全と法
 共同研究者 大磯 義一郎
 最高裁判所 司法修習所 司法修習生
 助成金額 2,000,000円 本研究期間 08.12.18 ~ 09.10.31

田山 剛崇 (たやま よしたか)

広島国際大学 薬学部 医薬品情報学講座 助教
 研究テーマ 小児の医薬品適正使用を目的とした幼稚園・保育園に勤務する教職員向け医薬品情報提供用紙およびお薬手帳の作成とその有用性に関する研究
 共同研究者 太田 茂
 広島大学 薬学部 薬学部長 教授
 共同研究者 小林 正夫
 広島大学 医学部 小児科学 教授
 共同研究者 豊見 敦
 有限会社 豊見薬局
 広島県薬剤師会 理事
 広島県青年薬剤師会 会長
 助成金額 1,900,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

琴岡 憲彦 (ことおか のりひこ)

佐賀大学 医学部 危機管理医学講座 講師
 研究テーマ 在宅介護サービス提供者に対する心不全診療の教育を行い、循環器専門医と連携した在宅心不全診療を行なうことにより、高齢心不全患者の再入院率および入院期間を低下させることができるかを検討する。
 共同研究者 福田 幸弘
 医療法人アールアンドエー グリーンクリニック 理事長
 助成金額 2,000,000円 本研究期間 08.11.1 ~ 09.10.31

合計 件数 15件 金額 29,400,000円

平成20年度研究助成採択合計 件数 22件 金額 60,000,000円

(所属・肩書は申請時のもの)

第 5 回 ヘルスリサーチワークショップを開催

- 各方面からますます評価を高める“ 出会い ”と“ 学び ”の場 -



平成 21 年 1 月 24 日(土)・25 日(日)に、ヘルスリサーチ分野、保健・医療分野及び行政分野の研究者・実務担当者、メディア、外国人留学生、その他の計約 50 名の参加を得て、第 5 回ヘルスリサーチワークショップをアポロラーニングセンター(ファイザー(株)研修施設：東京都大田区)で開催しました。今回の基本テーマは「グローバル社会と医療 変容・対話・展望」です。

第 1 日目

オリエンテーション

プログラム最初のオリエンテーションでは、中村 伸一さん(本ワークショップ 幹事)から本ワークショップの目的とコンセプトについて以下の通り説明が行われました。

目的：“ 出会い ”と“ 学び ”

コンセプト：誰かが教えてくれる研修会ではなく、異分野の方々による討議を通じてお互いの新たな“ 気づき ”を重視し、参加する一人ひとりが楽しみながら“ 何か ”を始めるためのお手伝いをするための集まり

そして、この趣旨に従って、例年通り、ワークショップ中は、肩書きや立場を忘れるために、お互いに「さん」で呼び合うというグラウンドルールが設定されました。

参加者・関係者の所属は本ワークショップ開催時のものです。また、敬称はグラウンドルールに基づき、全て「さん」とさせていただきます。

開会挨拶

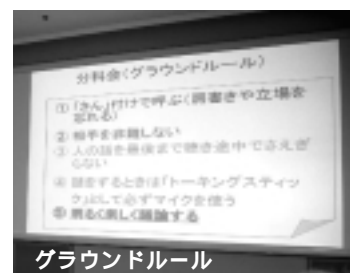


廣田 孝一さん
(財団事務局長)

オリエンテーション司会



左：中村 伸一さん(幹事)
右：都竹 茂樹さん(世話人)



グラウンドルール

自己紹介

次に全参加者から、予め本人がパワーポイントで作成してきたスライドを使いながらの自己紹介が行われました。中には心血注いで非常に凝ったスライドを作り上げてこられた方もあり、笑い声の絶えない和気あいあいとした雰囲気が生まれました。



花 チーム



ファシリテーター



大久保菜穂子さん



中村 洋さん



奥 裕美さん(聖路加看護大学 看護管理学 助教)、小野崎 耕平さん(ハーバード大学アジアセンター フェロー / 特定非営利活動法人日本医療政策機構 事務局長補佐 医療政策担当ディレクター)、桐野 智江さん(高知大学医学部医学科 6 年 医学部学生)、賢見 卓也さん(株式会社パリアン 看護師)、鈴木 良子さん(学校法人神奈川歯科大学・湘南短期大学 看護学科 教授)、高島 義裕さん(World Health Organization Medical Officer, Expanded Programme on Immunization)、松浦 直己さん(東京福祉大学・大学院 教育学部(兼)奈良教育大学 特別支援教育研究センター 教授)、馬 駿 瑠 さん(富士ゼロックス株式会社 システム要素技術研究所 研究員)

基調講演

成蹊大学法学部 教授 遠藤 誠治さんより「グローバル化と人間の安全保障 - 変動する世界と医療の交錯 -」、NPO法人宇宙船地球号 事務局長 山本 敏晴さんより「世界のため、あなたにできること たくさんの国と、日本のつながり」の演題で、遠藤さんからは学究的な視点、山本さんからは現実的な視点からの基調講演をいただきました。



遠藤 誠治さん 成蹊大学法学部 教授

司会



左：長谷川 剛さん(幹事)
右：安川 文朗さん(幹事)

山本 敏晴さん NPO法人 宇宙船地球号 事務局長



パネルディスカッション

次に基調講演演者の遠藤 誠治さん、山本 敏晴さんに、長谷川 剛さん(本ワークショップ 幹事)、安川 文朗さん(同 幹事、総合司会)が加わってパネルディスカッションが行われ、会場一体となった活発な意見交換が行われました。



分科会

いよいよ分科会です。

花 チーム、鳥 チーム、風 チーム、月 チームの4チームで、胸には今回のテーマに関連してチーム名をユニバーサルデザイン化したマークを付けて、各部屋に分かれ、活発な討論が開始しました。今回は前回同様、各チームへ“切り口”が予め与えられずに、「グローバル社会と医療 変容・対話・展望」の基本テーマの下に、自由に討論することとされました。

パネルディスカッション

鳥 チーム



ファシリテーター



中村 伸一さん



後藤 励さん



石田 直子さん(フリーランス エディター)、宇治原 誠さん(国立病院機構 横浜医療センター 統括診療部長)、梶岡 多恵子さん(東京大学大学院医学系研究科・公共健康医学専攻 大学院生)、豊川 貴生さん(沖縄県立八重山病院 医師)、中島 美津子さん(聖マリア学院大学 助教)、中西 三春さん(財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 研究部 研究員)、尾藤 誠司さん(独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター 教育研修部臨床研修科 医長)、南 温さん(郡上市地域医療センター 国保和良歯科診療所 & 国保歯科保健センター 所長)、山崎 祥光さん(医師・法科大学院卒)、Chandika Damesh Gamageさん(北海道大学大学院 医学研究科 大学院生(博士課程2年))



風チーム

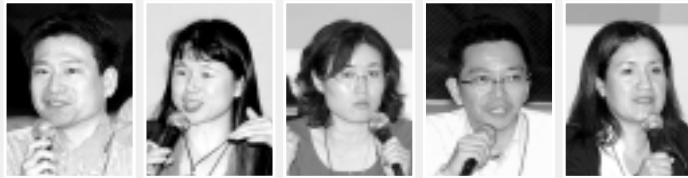


ファシリテーター



都竹 茂樹さん

安川 文朗さん



浅井 文和さん(株式会社朝日新聞社 東京本社 編集局 編集委員)、金村 政輝さん(東北大学病院 総合診療部 講師)、関原 宏昭さん(株式会社ラ・ビュア地域デザイン研究所 代表取締役/琉球大学観光産業科学部長寿科学研究プロジェクト 客員研究員)、武林 亨さん(慶應義塾大学医学部 衛生学公衆衛生学 教授)、田村 寛さん(京都大学医学部附属病院診療報酬業務センター/運営企画室 助教)、菅山 紀子さん(厚生労働省 大臣官房 国際課 係長)、仁科 典子さん(株式会社リクルートドクターズキャリア 広告事業部 ジャミックジャーナル編集グループ 副編集長)、和田 啓義さん(日本医療推進事業団 日本医療学会 副事務局長)、Herrera Cadillo Lourdes Rosarioさん(大阪大学大学院人間科学研究科グローバル人間学専攻人間開発講座 非常勤特任研究員)

情報交換会

夕食時は、立食形式の情報交換会により、このワークショップのもう一つの大きな目的である、参加者相互と幹事・世話人等の“出会い”と親交の輪が広がりました。

情報交換会途中には、参加した外国人留学生の3名による「お国自慢」も披露されて、和やかな雰囲気でも時間が過ぎていきました。

中締めが行われた後でも、多くのグループが会場を立ち去り難く、夜遅くまで残って歓談や討議をくり広げていました。



会場風景



乾杯の音頭： 中村 安秀さん
 中締めの挨拶： 平井 愛山さん
(本ワークショップサポーター) (本ワークショップサポーター)

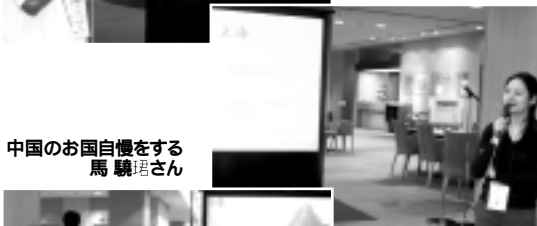
司会



左：秋山 美紀さん(世話人) 右：中村 洋さん(幹事)



スリランカのお国自慢をする
 チャンデカ
 ダメッシュ ガマゲさん



中国のお国自慢をする
 馬 驍 浩さん



ペルーのお国自慢をする
 エレーラ カディジョ ルルデス ロサリオさん



夜遅くまで続いた
 二次会・三次会討論



月チーム



ファシリテーター



長谷川 剛さん



秋山 美紀さん



石川 善樹さん (McCann Healthcare Worldwide Japan Public Health) 上塚 芳郎さん (東京女子医科大学医学部 医療・病院管理学 教授) 岡村 世里奈さん (国際医療福祉大学 准教授) 西澤 真理子さん (リテラジャパン (株式会社リテラシー) 代表) 野崎 真道さん (医療法人社団誠善会 千葉中央メディカル健康スポーツセンター 所長) 林 健太郎さん (Royal Tropical Institute of Netherlands (KIT: Koninklijk Instituut voor de Tropen) MIH (Master of International Health) Student) 深見 真希さん (京都大学大学院 経済学研究科 リサーチ・フェロー) 山品 博子さん (北海道大学大学院医学研究科 国際保健医学分野 修士課程2年)

第2日目

午前中は、前日に引き続いての分科会が行われ、午後からの各チームの発表に備えた追い込みの議論が展開されました。

チーム別発表・全体討論

午後からは、再び全員が一堂に会して、チーム別の発表と全体討議が行われました。今回は、各チーム総合発表に加えて、各々の参加者の一言が加えられるという形式がとられました。

司会



左から：小川 寿美子さん(世話人)、後藤 励さん(世話人)、大久保 菜穂子さん(世話人)

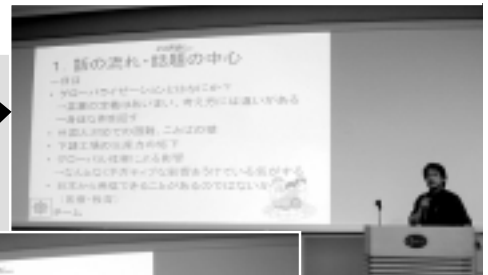
午後3時、全プログラムが終了して、散会となりました。

このヘルスリサーチワークショップは、各方面から高い評価を頂いています。チーム別発表の際のコメントでも異口同音に「色々な領域の人と討論ができて非常に参考になった。ネットワークも拡大した」との意見をいただいています。

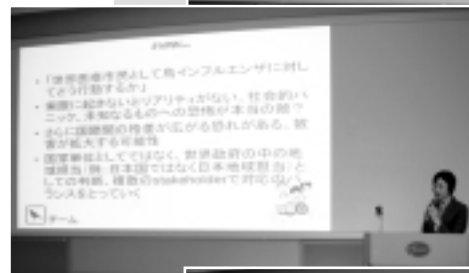
閉会の挨拶をされる中島 和江さん (本ワークショップサポーター)



花チーム



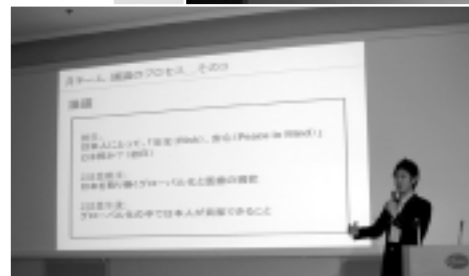
鳥チーム



風チーム

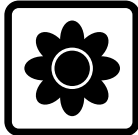


月チーム



現在、この第5回ヘルスリサーチワークショップの内容の冊子の作成を取り進めており、8月頃完成の予定です。完成次第、財団ホームページ等でご案内いたします。

また、第6回ヘルスリサーチワークショップのテーマ及び参加者公募のお知らせは、6月頃財団ホームページで公開致します。(当財団ホームページアドレス <http://www.pfizer-zaidan.jp>)



グローバル社会の必需品は国語辞典？

聖路加看護大学 看護管理学 助教 奥 裕美



「グローバル社会と医療」のテーマが掲げられ、外国人の方もいらっしゃる今回のワークショップに参加するにあたり、使用言語は何なのか、英和辞典持参か、とまずは本質的ではないところに気を使った。さらに、世界を相手に活躍する方々による積極的な議論が行われることを予想し、おしゃべりで後悔することが多く、「秘すれば花なり」を座右の銘としたい私は、この戒めを破るべきか否かで悩んだ。

参加した「花チーム」にもまた、所属先の名称が横文字やカタカナの方がいた。どんな思いもよらぬ討議が始まるのかと身構えたが、文化の違いに翻弄され、苦い経験をしたことがあるという点は共通しており、自分と違う「世界」との接点は外国に限らずいたるところにある、と再認識した。そして、今社会はグローバル化しているというが、

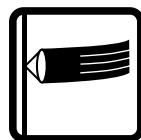
実は幕末・明治時代に開国した際すでに経験済みであり、歴史から学ぶことがたくさんあるはずである、という意見に感動した。日本の現場は変化の潮流にさらされながら、日本なりの適応をしてここまで来た。もっと自信をもって日本人をやっていると思った。

ところで期せずしてグループ討議の書記をすることとなったが、漢字が飛び交い、「あとで逐語録ができるから...」と、知らない諺、故事の類は全て記録しなかったことを、チームメンバーにお詫びしたい。私に必要なものは英和辞典ではなく、歴史の教科書と国語辞典だった。

また、NPO法人宇宙船地球号事務局長、山本氏の講演にショックを受けたと報告したグループがあったが、私も密かに大ショックを受けていた。それは、日本人のダイヤモンド好きがリベリアの戦争に関係している、と知ったからである。勤務する大学にはリベリア人の留学生がいる。リベリアがどこにあるかさえ知らない人が多い中、私は彼女の国のことを知った「つもり」でいた。自国の医療を良くする術を学ぶ為に来日した彼女は、日本の医療について説明している私の首からぶら下がっている小石を見て、どんな思いでいたのだろうか。

世界がつながっていること、相手のことを知った「つもり」になることは怖い、と感じた。

最後になりますが、日本中、世界中で活躍する方々に出会えたこと、そしてその機会を提供して下さったファイザーヘルスリサーチ振興財団および、お忙しい中ご準備いただいた幹事、世話人、関係者の皆様から感謝いたします。ありがとうございました。



『仲間意識』を強く感じ、日々の活動への元気をいただきました

東北大学病院総合診療部 講師 金村 政輝



今回は、昨年に引き続いての2回目の参加となりました。昨年は医療崩壊がテーマでしたが、今年はグローバル社会がテーマで、どんな議論になるのか期待と不安をもって参加させていただきました。

私の参加した「風」チームでは、自分の中でのグローバル化について語ることから始まりました。見えてきたのは、平等と格差、標準化と個性、規制と裁量という2項対立的な側面をもっていて、その流れから逃れることはできないということでした。山本敏晴さんの講演（衝撃的な内容で「山本ショック」と言った方もおられました）を振り返りながら、語りを深めることで、グローバル化が私達の生活を脅かしているだけではなく、私達の行為自体が世界の悲劇とも結びついている、私達はすでに当事者なのだという認

識を深めました。

多様性を認めながら、グローバル・ルールとローカル・ルールとの折り合いをどうつけるのか。私達には何ができるのか。そのためには、情報が重要であり、情報を知り、自分達の頭で考え、アクションを起こすことが必要、アクションは何も海外に出て行くということだけでなく、まわりの知らない人に知らせることでよい、知らせるためには、理屈だけではなく、その気にさせることがとても大切、という結論に至りました。そして、それらをつなぎ、動かすものは「愛」なのだ、と。

想像力を働かせて、コミュニティの概念の範囲を広げると同時に、実際の活動においては、自分が属しているコミュニティの問題解決と同じように地道に取り組むこと、これが私の得た結論です。最後の発表会で、幹事の中村伸一さんが「情けは人のためならず」と述べられましたが、まさにそのとおりなのだと思います。

2日間のワークショップでは、ファシリテーターの巧みな働きかけもあって、結論を急がず、じっくりと対話することができました。日々、時間や結果に追われる生活では、決して得られない貴重な経験でした。参加された皆さんと「仲間意識」を強く感じ、日々の活動への元気をいただくことができました。皆さんどうもありがとうございました。また、お忙しい中、ワークショップの企画・運営をされました幹事・世話人・サポーターの皆様、そして、振興財団及びファイザーの皆様へ感謝申し上げます。経済状況の厳しい折ですが、このような有意義な機会を是非今後も続けていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

平成の松下村塾

沖縄県立八重山病院 医師 豊川 貴生



大学時代の恩師が声をかけてくださった今回のワークショップ。何とか審査を通過し、送付されてきた参加者名簿をみて、まずびっくり。著名な保健医療分野の研究者、教育者のみならず、中央官庁の行政官、国際機関の職員、ジャーナリストやフリーライターなどなど。これほどバリエーションに富んだ背景の参加者によりどのような議論が行われるのだろう。そもそも私のような田舎の臨床医が参加してもいいのか？そんな疑問を拭えぬまま日中気温が20度を超える石垣から、当直明けの寝ぼけ眼をこすり、飛行機に飛び乗り二度の乗り換えののちに羽田に到着。最高気温が6度と突き刺すような寒さの中を友人から借用したコートに身をすくめワークショップの会場に到着してみると、受付の時間にも関わらず、すでにロビーでは熱い議論が。



結局全日程を通して熱い議論の連続。日中の分科会で与えられたテーマだけでは飽きたらず、夜の懇親会、そして懇親会後の“裏”分科会でも、救急車のたらい回しに象徴される医療崩壊や社会格差の拡大に伴う社会不安の増大といった現在日本を取り巻く諸問題に関して、文字通り日本全体を覆う閉塞感を吹き飛ばすかのように口角泡を飛ばして天下国家を論ずる、そんな濃厚な時間が過ぎていきました。懇親会で伺ったところでは、このワークショップは明治維新における松下村塾をモチーフに設立されたとのこと。アヘン戦争を経て欧米列強により蹂躪される清国の状況を出島という小さい窓から目のあたりにし、開国を迫る黒船の前に大きく揺らぐ日本の行く末を案じ、武士、商人、農民の分け隔て無く社会変革に身を投じた長州志士達のプラットホームとしての役割を果たした松下村塾。日本の医療、社会を取り巻く諸問題を前にして、内にこもるのではなく変革していくのだという志を共有した参加者が集う本フォーラムは、まさに平成の松下村塾と呼ぶに相応しい会であると思いました。そして参加者の皆さんとの議論を通して、一人一人が与えられた現場で社会をより良い方向へ導いていくのだという確かな手応えを感じられたことが、今回参加し得られた大きな収穫でした。

現在日本最南端の総合病院に戻り、慌たしい臨床業務に戻っていますが、今回のワークショップで得た新たな視点、志を胸に、与えられた場所で業務に取り組んでいく所存です。筆を置くにあたり、多くの刺激を与えてくださった参加者の皆様、幹事、世話人をはじめとするワークショップの運営に携わって下さった方々、そしてファイザーヘルスリサーチ振興財団の皆様にお礼申し上げます。

知識と経験の大切さ

北海道大学大学院 医学研究科 山品 博子



皆さん、こんにちは。北海道大学大学院 医学研究科国際保健医学分野の山品です。同研究室のチャンディカさんと一緒に、意気揚々と飛行機に乗り込み、会場に向かったことをつい昨日のこのように思い出されます。正直なところ、初めてワークショップのお話をいただいたときは、ちょっと参加して、お話聞いて、という気軽な思いでいました。しかし、チャンディカさんがお国紹介のスライド作りで必死になっているのを見て、いつもの受け身な感じではいけない気がし始め、「グローバル社会と医療」というテーマのもと、自分が出席する意味・意義について少し考えるようになりました。とは言え、何をどうしたら良いのかもわからず、「何か吸収して帰ろう！」その気持ちだけで会場に足を踏み入れたように思います。



自己紹介、特別講演とあっという間に時間が過ぎ、とにかく会場の雰囲気にもまれ、啞然・呆然、自分だけ違う空間に取り残されたような気分になりました。この先に控えているグループディスカッションで一体何を語ればいいのか、内心ドキドキでした。しかし、グループ月はとても居心地がよく、難しいテーマにも関わらず、いろいろな意見が飛び交い、ほんの短い間にいろいろな知識を吸収させて頂きました。また、グループディスカッションの中で難しいと感じたのは、バックグラウンドの異なる集団の中で、自分の位置を何処に置き、そしてその軸をいかにぶらさずにいれるかということです。

これまでアメリカ、ニュージーランド、スリランカといろいろな国で生活してきた私ですが、“知っているつもり”になっていたことが多かったように思います。まだまだ、社会経験の少ない私にとって、“国際保健”について語れることは少なく、とにかく驚きと惑いの連続でした。他方、チャンディカさんは、自分の意見をいっぱい述べられた！もっと日本語を勉強する！と目を輝かせていました。とにかく、この2日間で研究者としてさらに成長させて頂いたと思います。何かご質問・ご感想などありましたら、いつでも下記アドレスまでご連絡下さい。

coco81h@gmail.com

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった世話人の先生方、ファイザーヘルスリサーチ振興財団の皆様にお礼申し上げます。また皆様に会えることを楽しみにしています。

第34回評議員会並びに第34回理事会を開催

平成21年度事業は縮小、しかし助成件数は大幅増

東京都渋谷区の新宿文化クイントビルで、3月5日（木）に第34回評議員会が、3月13日（金）に第34回理事会が開催され、平成21年度の当財団の事業計画、収支予算、任期満了に伴う役員改選、その他が審議されました。

平成21年度は、前年度と同様に財団の基金（約25億円）の運用益を原資とする事業展開を行いますが、世界的な不況の中で事業規模は縮小せざるをえません。しかしその中で、研究助成事業においては従来満年齢40歳未満を対象としていた国内共同研究助成に年齢制限無しのカテゴリーを追加するとともに、助成件数を大幅に拡大（但し1件あたりの助成額は減少）し、助成を希望する研究者へ大きく門戸を広げた内容の事業計画となっています。

主な内容は以下の通りです。

(1) 助成事業

「国際共同研究助成」、「国内共同研究助成（年齢制限なし）」、「国内共同研究助成（満39歳以下）」の3事業を実施する。

内訳は

「国際共同研究助成」6件..... 1件300万円以内、総額1,800万円
 「国内共同研究助成（年齢制限なし）」10件..... 1件100万円以内、総額1,000万円
 「国内共同研究助成（満39歳以下）」15件..... 1件100万円以内、総額1,500万円

で、合計4,300万円です。

募集時期：平成21年4月～7月10日（金）

採否通知：平成21年9月下旬

助成金支払時期：平成21年11月10日（火）以後

第16回ヘルスリサーチフォーラム及び研究助成金贈呈式＜平成21年11月7日（土）開催＞終了以後に支給開始。

(2) 財団機関誌「ヘルスリサーチニュース」

前年度に引き続き年間2回（4月・10月）発行とします。

(3) 第16回ヘルスリサーチフォーラム・研究助成金贈呈式 及び 講演録

ヘルスリサーチフォーラム及び助成金贈呈式を以下の通り実施します。

開催日：平成21年11月7日（土）

会場：千代田放送会館（千代田区紀尾井町）

後援：厚生労働省

協賛：医療経済研究機構

テーマ：総合科学としてのヘルスリサーチ

平成19年度実施の国際共同研究並びに国内共同研究の成果発表、平成18年度国内共同研究発表、平成21年度公募の一般演題発表及び討論等を1会場方式で開催します。昨年まで実施していたポスターセッションは今回は実施しません。

フォーラムの内容を記録した講演録を従来通り3,000部作成・配布します。

(4) 第6回ヘルスリサーチワークショップ 及び 小冊子

概略下記予定で第6回ヘルスリサーチワークショップを開催します。

開催日：平成21年1月30日（土）・31日（日）

会場：アポロラーニングセンター（ファイザー（株）研修施設）（予定）

参加者：40名程度（推薦と公募を予定）

記録：翌年度に小冊子を3,000部程度作成・発行します。

テーマ等詳細は、今後のヘルスリサーチワークショップ幹事・世話人会で決定していきます。

(5) 第9回北里・ハーバードシンポジウムへの後援

従来から実施してきた北里・ハーバードシンポジウムへの後援を、平成21年度も継続します。

これらを含めた財団の平成21年度事業計画は次項の通りです。

財団関連人事情報

平成21年3月末日付で、本人からの辞意表明により、評議員 岸 玲子先生が退任されました。先生には当財団の発展に多大なご貢献をいただきました。本誌面を借りて心から御礼申し上げます。

また平成21年4月1日付で評議員として長谷川 剛先生（自治医科大学 医療安全対策部 教授）が新たに就任されました。

その他の理事・監事、評議員及び選考委員は、任期満了に伴い、全員が再任されました。

理事・監事 (敬称略・50音順)

理事長 島谷 克義(再任)
ファイザー(株)顧問
常務理事 松森 浩士(再任)
ファイザー(株)執行役員
理事 開原 成允(再任)
国際医療福祉大学大学院長
理事 黒川 清(再任)
政策研究大学院大学教授・
日本医療政策機構代表理事
理事 幸田 正孝(再任)
(財)がん研究振興財団理事長
理事 高久 史鷹(再任)
自治医科大学学長・
日本医学会会長
理事 松田 朗(再任)
(社)日本医薬経営コンサルタント協会会長
理事 南 裕子(再任)
近大姫路大学学長・
国際看護師協会会長
理事 宮澤 健一(再任)
一橋大学名誉教授
理事 山崎 幹夫(再任)
新潟薬科大学学長
監事 片山 隆一(再任)
公認会計士
監事 北郷 勲夫(再任)
(財)日本障害者スポーツ協会会長

評議員 (敬称略・50音順)

評議員 出月 康夫(再任)
東京大学名誉教授
評議員 岩崎 榮(再任)
特定非営利活動法人卒後臨床研
修評価機構 専務理事・
日本医科大学法人顧問・
(財)日本医療機能評価機構執行理事
評議員 岩田 弘敏(再任)
東海学院大学教授・
岐阜大学名誉教授
評議員 宇都木 伸(再任)
東海大学法科大学院教授
評議員 大塚 宣夫(再任)
医療法人社団慶成会青梅慶友病院理事長
評議員 大道 久(再任)
日本大学医学部教授
評議員 河北 博文(再任)
医療法人財団河北総合病院理事長・
東京都病院協会会長・
(財)日本医療機能評価機構専務理事
評議員 長谷川 剛(新任)
自治医科大学医療安全対策部教授
評議員 福原 俊一(再任)
京都大学大学院医学研究科
医療疫学分野教授
評議員 矢作 恒雄(再任)
慶應義塾大学名誉教授・
尚美学園大学教授

選考委員 (敬称略・50音順)

委員長 永井 良三(再任)
東京大学大学院医学系研究科
内科学専攻循環器内科教授
委員 伊賀 立二(再任)
昭和薬科大学学長
委員 宇都木 伸(再任)
東海大学法科大学院教授
委員 小堀 昌一郎(再任)
国立国際医療センター名誉院長
委員 平野かよ子(再任)
東北大学大学院医学系研究科教授
委員 矢島 鉄也(再任)
厚生労働省大臣官房厚生科学課長
委員 矢作 恒雄(再任)
慶應義塾大学名誉教授・
尚美学園大学教授

任期...理事・監事、評議員及び選考委員とも、
平成21年4月1日～平成23年3月31日の2年間。



退任された岸 玲子先生 新任の長谷川 剛先生

名誉理事 (敬称略・50音順)

名誉理事長 垣東 徹
(財)ファイザーヘルスリサーチ
振興財団元理事長
名誉理事 岩崎 博充
ファイザー(株)代表取締役社長

名誉理事 大谷 藤郎
国際医療福祉大学総長
名誉理事 岡本 道雄
京都大学名誉教授

名誉理事 花野 学
東京大学名誉教授
名誉理事 岸 玲子
北海道大学大学院医学研究科
予防医学講座公衆衛生学分野教授

(役職・肩書は全て平成21年3月31日現在のものです。)

平成21年度事業計画

平成21年度事業概要

研究等助成 1. 国際共同研究事業

保健医療福祉分野の政策あるいは、これらサービスの開発・応用・評価に資するヘルスリサーチの研究テーマについて国際的な観点から実施するヘルスリサーチ領域の共同研究への助成。

期 間：原則として1年

助成件数：6件

助成金額：1件 300万円以内

募集方法：公募/財団ホームページ、大学病院医療情報ネットワーク(UMIN)、医療経済研究機構レター、ヘルスリサーチニュース(4月号)に公募記事掲載。

大学、研究機関、学会、都道府県医師会/歯科医師会/薬剤師会/看護協会、都道府県・政令指定都市保健所長等にチラシ配布

2. 国内共同研究事業(年齢制限なし)

保健医療福祉分野の政策あるいは、これらサービスの開発・応用・評価に資するヘルスリサーチの研究テーマについて国内におけるヘルスリサーチ領域の共同研究助成。

期 間：原則として1年間

助成件数：10件

助成金額：1件 100万円以内

募集方法：公募/財団ホームページ、大学病院医療情報ネットワーク(UMIN)、医療経済研究機構レター、ヘルスリサーチニュース(4月号)に公募記事掲載。

大学、研究機関、学会、都道府県医師会/歯科医師会/薬剤師会/看護協会、都道府県・政令指定都市保健所長等にチラシ配布

3. 国内共同研究事業（満39歳以下）

保健医療福祉分野の政策あるいは、これらサービスの開発・応用・評価に資するヘルスリサーチの研究テーマについて取り組む若手研究者の育成を目的とする助成。

期 間：原則として1年間

助成件数：15件

助成金額：1件 100万円以内

年齢制限：満39歳以下（平成21年4月1日現在）

募集方法：公募/財団ホームページ、大学病院医療情報ネットワーク（UMIN）、医療経済研究機構レター、ヘルスリサーチニュース（4月号）に公募記事掲載。
大学、研究機関、学会、都道府県医師会/歯科医師会/薬剤師会/看護協会、都道府県・政令指定都市保健所長会等にチラシ配布

財団機関誌の刊行
（ヘルスリサーチニュース）

事業及びその成果を情報として提供し、研究の推進、啓発を図る。また、ヘルスリサーチの啓発と実践的な展開を目指して年2回発行（4月10月）し情報提供を行う。

配 付：年2回 A4 20～24頁 9,000部

配付方法：財団関係者、全国大学の医学部、薬学部、看護学部、経済学部、法学部、社会学部、医療機関、都道府県医師会/歯科医師会/薬剤師会/都道府県・政令指定都市保健所長会、報道機関等へ郵送。

第16回
ヘルスリサーチ
フォーラム・
研究助成金贈呈式
及び講演録

ヘルスリサーチフォーラムと平成21年度研究助成金贈呈式を併催する。

平成19年度実施の国際共同研究並びに国内共同研究の成果発表、平成18年度国内共同研究発表、平成21年度公募の一般演題発表及び討論等を1会場方式で開催する。昨年まで実施していたポスターセッションは実施しない。フォーラム終了後に平成21年度の研究助成発表・贈呈式を行う。贈呈式においては、厚生労働省大臣官房厚生科学課長、出捐企業代表者挨拶に続いて、平成21年度応募助成案件の選考結果・経過の発表並びに研究助成金授与を行う。ヘルスリサーチフォーラムの成果発表及び平成21年度研究助成内容発表・研究助成金贈呈式の内容は小冊子として纏め、平成22年3月に配布する。

テーマ：総合科学としてのヘルスリサーチ

開催日：平成21年11月7日（土）

会 場：千代田放送会館（千代田区紀尾井町）

後 援：厚生労働省

協 賛：医療経済研究機構

参加者：財団役員、選考委員、関係官庁、報道関係者、共同研究発表者、助成採択者、出捐会社役員、LSF懇談会メンバー等 200名

小冊子：A4版 350頁 3,000部

第6回ヘルスリサーチ
ワークショップ
及び小冊子

当財団の主たる事業として、将来のヘルスリサーチ研究者・実践者の戦略的な育成とヘルスリサーチという学際的な研究の効果的・効率的な促進を通じて保健医療の向上への貢献を目指している。その一環として、平成20年度に引き続きヘルスリサーチワークショップを開催し、当該領域を志向する研究者・実践者の人的交流と相互研鑽に焦点を当て“出会いと学び”の場を作り、ヘルスリサーチ研究の領域をリードしていきたいと考え主たる事業として当該ワークショップを開催する。当財団の従前からの主たる事業であるヘルスリサーチの研究助成に新たな命題を創造提供する事を期待すると共にその内容を小冊子としてまとめ次年度に配布する。

開催日：平成22年1月30日（土）～1月31日（日）

会 場：アポロラーニングセンター（ファイザーの研修施設）を予定

参加者：ヘルスリサーチの研究を志向する多分野の研究者等 40名（推薦+公募）

小冊子：A4版 100頁 3,000部を次年度に作成予定

（平成20年度第5回開催分の小冊子は本年度作成・配布予定）

テーマ：本年度のテーマ等はヘルスリサーチワークショップ幹事・世話人会で決定する。

第9回
北里・ハーバード
シンポジウムへの
後援

開催予定：平成21年9月11日（金）～12日（土）

主 催：北里大学・ハーバード大学

後 援：ファイザーヘルスリサーチ振興財団

参加者：治験に関係するドクター、製薬会社、規制当局関係者 600人

開催場所：北里大学薬学部コンベンションホール

内 容：未定

テ ー マ：未定

平成21年度予定表

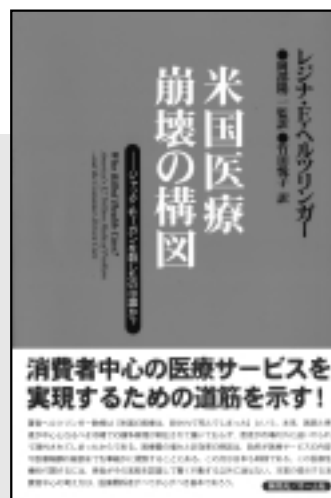
事業年度		平成20年度			平成21年度											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
運営会議	理事会 評議員会	平成21年度 事業計画・予算 3月13日(金)第34回			平成20年度事業報告・決算報告 新年度現況報告 5月第35回									平成22年度 事業計画・予算 3月第36回		
		3月5日(木)第34回			5月第35回 監事決算監査									3月第36回		
事業関連	選考委員会	2月13日(金)第50回 新年度助成方針			選考方針・作業分担 7月30日(木)第51回 最終選考 8月28日(金)第52回									2月 第53回/新年度助成方針		
助成事業他	公募 選考 選考結果	→ 応募要綱作成			← 公募期間(配布・紹介) 7/10			← 最終公募とりまとめ			← 平成22年度 応募要綱作成					
	第16回ヘルスリサーチフォーラム &助成金贈呈式 第6回ヘルスリサーチワーク ショップ ヘルスリサーチニュース発行 (年2回発行) 第9回北里・ハーバード シンポジウム	第15回 小冊子 刊行 幹事世話人会			← 案内・広告			← 公募現況報告			← 選考作業 面接			← 正式発表・通知		
管理業務	(一般業務)	→ 平成21年度予算・事業計画作成			← 一般演題公募									← 参加者募集		
	平成20年度決算処理 厚生労働省報告(予算・決算書) 助成金支払い 平成22年度予算・事業計画作成	→			← 一般演題選考決定 幹事世話会 幹事会 幹事世話会			← 11/7(土)			← 第6回ワークショップ開催 1月30/31日(土、日)			← 第16回 小冊子 刊行		
		→			← 予算書			← 決算報告書			← 11/10			← 特増更新		

推薦
図書

米国医療 崩壊の構図

- ジャック・モーガンを殺したのは誰か？

目次	第一部 米国医療崩壊の構図 - ジャック・モーガンを殺したのは誰か？
	第一章 医療サービスが崩壊した日
	第二部 緩やかな死への歩み
	第二章 殺人者その一 医療保険会社
	- 機能不全の文化がもたらす死
	第三章 殺人者その二 総合病院
	- 帝国を築いた手が死をもたらす
	第三章 補遺 病院の診療報酬を減らし、医療の質を高める技術革新
	第四章 殺人者その三 雇用主企業
	- ひとつだけの「選択肢」が死を招く
	第五章 殺人者その四 米国議会
	- 選ばれた国民の代表がもたらす死
	第六章 殺人者その五 専門家集団
	- エリートの医療政策立案者の手による死
	第三部 あるべき医療 - 消費者が動かす医療サービス市場
	第七章 消費者が動かす医療サービスの仕組み
	第八章 消費者が動かす医療保険給付
	- 諸外国や他産業からの教訓
	第四部 消費者が動かす医療サービス - 実現への道 - アメ、ムチ、法律
	第九章 アメ - 医療ビジネスの起業家精神を花咲かせよう
	第十章 ムチ - 情報の流れをよくしよう
	第十一章 消費者が動かす大胆に改革された医療システム
	- 法律と立法議員



著者：レジーナ・E・ヘルツリンガー
 監訳者：岡部陽二
 訳者：竹田悦子
 定価：2,200円+税
 発売元：オーム社
 発行所：一灯舎

第16回

ヘルスリサーチフォーラム 及び平成21年度助成金贈呈式 開催のお知らせ

第16回ヘルスリサーチフォーラムを下記により開催いたします。
詳細は次号本誌（平成21年10月発行、秋季号）でご案内いたします。

テーマ：総合科学としてのヘルスリサーチ

内容：プレゼンテーション形式での発表

日時：平成21年11月7日(土)

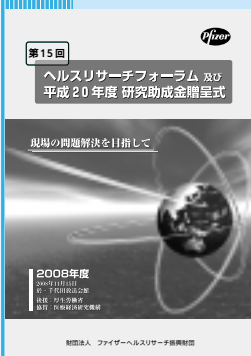
主催：財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団

正午12時～午後5時30分(予定)
(参加しやすい半日のフォーラムです)

後援：厚生労働省(予定)

会場：千代田放送会館(東京都千代田区紀尾井町)

協賛：財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会
医療経済研究機構



第15回ヘルスリサーチフォーラムの講演録が完成しました。

平成20年11月15日(土)に開催した第15回ヘルスリサーチフォーラム及び平成20年度研究助成金贈呈式の内容を記録した講演録が完成しました。
最新のヘルスリサーチ研究の潮流を知るための格好の研究成果が多数収録されております。
無料(但し数量限定)にてお送りいたしますのでご希望の方は別紙申込書によってお申し込み下さい。

当日フォーラムにご参加された先生方には既にお送りいたしております

ご寄付をお寄せ下さい

当財団の活動は、基本財産の運用に加えて皆様からのご寄付により行われています。当財団は、ご寄付をいただいた方々が、税務上の特典を受けられる特定公益増進法人の認定を受けております。
特定公益増進法人とは、公益法人のうち、教育又は科学の振興、文化の向上、社会福祉への貢献、その他公益の増進に著しく寄与すると認定されたもので、これに対する個人又は法人の寄付は以下の税法上の優遇措置が与えられます。(詳細は財団事務局までお問い合わせ下さい)

個人の場合

1年間の寄付金の合計額(その年の所得の40%相当が限度額)から、5千円を引いた金額が所得税の寄付控除の対象となります。

法人の場合

寄付金は、通常一般の寄付金の損金算入限度額と同額まで別枠で損金算入できます。

手数料のかからない郵便局振込用紙を同封しております。

財団の事業の趣旨にご理解下さるようお願いいたしますとともに、皆様からのご寄付をお待ちしております。

ご不明な点は何なりと財団事務局までお問い合わせ下さい。 TEL: 03-5309-6712

ご寄付御礼

昨年9月以降本年2月までに以下の方々からご寄付をいただきました。謹んで御礼申し上げます。

辻出 清和様	松山 高征様	清村 千鶴様	大久保 昌徳様	湯浅 純様	小倉 政幸様	安田 雅博様
陶山 数彦様	渡辺 尚之様	南里 秀之様	菅原 博様	床島 正志様	高野 哲司様	河野 潔人様
金子 恵美様	武田 里枝様	きみもなごやか様	海宝 和養様	小林 康郎様	池原 清春様	松森 浩士様
和田 浩幸様	木村 克弘様	朝倉 宏治様	廣田 孝一様	実践医薬品DTCセミナー事務局様		
株式会社日立製作所産業第一営業本部医薬システム営業部様				共和クリエイト株式会社		(順不同)